



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月7日
東

上場会社名 焼津水産化学工業株式会社 上場取引所
 コード番号 2812 URL https://www.yskf.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山田 潤
 問合せ先責任者 (役職名) 経営統括本部 経理部長 (氏名) 大勝 利昭 (TEL) 054-202-6044
 四半期報告書提出予定日 2020年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	11,496	△6.5	723	5.9	766	8.5	216	△53.9
2019年3月期第3四半期	12,297	2.5	683	△18.4	706	△18.0	469	△25.1

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 165百万円(△53.6%) 2019年3月期第3四半期 356百万円(△62.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	17.62	—
2019年3月期第3四半期	37.82	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	22,911	19,531	85.2
2019年3月期	22,950	19,722	85.9

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 19,531百万円 2019年3月期 19,722百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	10.00	—	19.00	29.00
2020年3月期	—	10.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	14.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,000	△8.9	750	△14.4	750	△15.6	50	△90.2	4.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	13,056,198株	2019年3月期	13,056,198株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	789,095株	2019年3月期	789,045株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	12,267,123株	2019年3月期3Q	12,401,285株

(注) 期末自己株式数及び期中平均株式数(四半期累計)の算定上控除する自己株式には、監査等委員でない取締役(社外取締役を除く)への株式報酬制度のために設定した信託口が保有する当社株式数が含まれております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

今般の当社製品の一部における不正表示につきましては、多くの関係者の皆様に多大なるご迷惑とご心配をお掛けしておりますことを深くお詫び申し上げます。

2019年11月18日に公表致しました再発防止策に基づき、全社一丸となって是正措置を講じるとともに再発防止に向けた取り組みを鋭意進め、お客様に支持される品質保証体制を再構築し、一日も早く、信頼回復を実現いたします。

当社グループでは、2022年3月までの3ヵ年中期経営計画「Create Next YSK」に基づき、“おいしさ”と“健康”で価値創造フィールドを拡大し、顧客に支持される食品メーカーへ成長することをビジョンとして、積極的な取り組みを進めています。

具体的には、i. 差別化とフィールド拡大による成長、ii. 海外事業のステージアップ、iii. 新規事業育成、の3つの重点施策を力強く推進しています。水産系の天然素材を原料とした調味料、機能性食品素材を強みとして、顧客視点による機会創造型営業マンの育成・強化と新製品の開発に取り組み、差別化を図っています。製造面については、設備投資を積極的に実行して、更なる効率化や安定製造に向けた取り組みを進めています。海外事業については、タイ国バンコクの駐在員事務所を活用し、ASEANを中心とした事業展開を進めています。新規事業については、当社グループがこれまでに培ってきた技術を活用して、農業分野など新たな事業分野への展開を進めています。

なお、再発防止策に優先的に取り組むため、中期経営計画の施策を見直しており、適時公表致します。

連結売上高につきましては、消費税増税による消費の低迷や当社製品の一部における不正表示に伴い販売活動が停滞したことから、114億96百万円（前年同期比8億円、6.5%減）となりました。利益面につきましては、原材料価格の上昇や人件費等の増加があったものの売上減少に伴う変動費の減少及び健康食品通信販売に係る広告宣伝費や先行投資の一部の経費が来期にずれ込む影響もあり費用計上が減少し、連結営業利益は7億23百万円（同40百万円、5.9%増）となりました。また、連結経常利益は、7億66百万円（同59百万円、8.5%増）となりましたが、不正表示に係る品質関連損失4億46百万円を特別損失に計上したことから親会社株主に帰属する四半期純利益は2億16百万円（同2億52百万円、53.9%減）となりました。

セグメント別の業績は以下の通りです。

(調味料)

調味料は、主に加工食品メーカー向けの液体調味料や粉体調味料の製造販売及び各種香辛料の製造販売に関するセグメントです。液体調味料は東京開発ラボを活用したプレゼンテーションが奏功し、大型案件を獲得し大幅に伸長しましたが、粉体調味料及び香辛料は大幅に減少しました。その結果、調味料セグメントの売上高は、57億92百万円（前年同期比1億20百万円、2.0%減）となりました。セグメント利益は、原材料価格の上昇が製造原価の悪化要因となったほか、売上構成の変化及び人件費の増加により6億52百万円（同34百万円、5.1%減）となりました。

(機能食品)

機能食品は、機能性食品素材及び機能食品の製造販売に関するセグメントです。注力素材であるアンセリンは新規案件獲得及び既存取引先商品の売上増により伸長しましたが、N-アセチルグルコサミン等の減少が響き機能性食品素材の売上が減少したほか、機能食品も市場環境の変化により主力商品の苦戦が続いており売上を伸ばすことが出来ませんでした。その結果、機能食品セグメントの売上高は、20億88百万円（同1億53百万円、6.8%減）となりました。セグメント利益は、売上高が減少したものの売上構成の変化及び健康食品通信販売に係る広告宣伝費等の一部の経費が来期にずれ込む影響もあり、5億4百万円（同62百万円、14.2%増）となりました。

(水産物)

水産物は、冷凍鮪・冷凍鰹の原料販売及び加工製品の製造販売に関するセグメントです。加工技術、品質に対する取引先からの評価を背景にOEM加工販売は順調に推移しましたが、自社商品販売が消費税増税による消費の低迷、原料相場下落による販売価格の見直し等により減収となりました。その結果、水産物セグメントの売上高は、27億19百万円（同4億95百万円、15.4%減）となりました。セグメント利益は、仕入原価の改善、OEM加工賃単価の見直し、販管費の削減等により53百万円（同34百万円、182.7%増）となりました。

(その他)

その他は、化粧品通信販売及びその他商品の販売に関するセグメントです。化粧品通信販売及びその他商品の販売が共に伸び悩みました。その結果、その他セグメントの売上高は、8億97百万円（同30百万円、3.3%減）となりました。セグメント利益は、売上高の減少により33百万円（同5百万円、15.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産の総額は、前連結会計年度末に比べ38百万円減少し、229億11百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金が2億74百万円、受取手形及び売掛金が1億51百万円増加した一方、商品及び製品が2億41百万円減少したこと等により1億60百万円増加し、149億75百万円となりました。

固定資産は、期中の減価償却が設備投資を上回り有形固定資産が1億80百万円減少したほか、保有株式の時価の下落により投資有価証券が69百万円減少したこと等により1億98百万円減少し、79億36百万円となりました。

流動負債は、支払手形及び買掛金が78百万円増加した一方、未払法人税等が98百万円減少したこと等により1億74百万円増加し、29億97百万円となりました。

固定負債は、繰延税金負債が19百万円減少したこと等により22百万円減少し、3億82百万円となりました。

純資産は、利益剰余金が1億40百万円、その他有価証券評価差額金が50百万円減少したこと等により1億90百万円減少し、195億31百万円となりました。

この結果、自己資本比率は85.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想につきましては、2019年12月20日に発表いたしました通期の業績予想の数値から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,252,486	8,526,698
受取手形及び売掛金	3,867,639	4,019,117
商品及び製品	1,058,646	817,499
仕掛品	61,045	83,007
原材料及び貯蔵品	1,499,827	1,438,751
その他	77,044	91,958
貸倒引当金	△1,700	△1,700
流動資産合計	14,814,989	14,975,334
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,037,900	1,929,497
機械装置及び運搬具(純額)	903,163	829,845
土地	2,603,175	2,603,175
リース資産(純額)	5,535	3,248
建設仮勘定	—	3,000
その他(純額)	59,873	60,657
有形固定資産合計	5,609,648	5,429,425
無形固定資産	44,798	83,379
投資その他の資産		
投資有価証券	2,078,446	2,008,477
退職給付に係る資産	211,967	228,702
繰延税金資産	8,768	9,652
その他	185,952	181,245
貸倒引当金	△4,321	△4,321
投資その他の資産合計	2,480,813	2,423,756
固定資産合計	8,135,261	7,936,560
資産合計	22,950,250	22,911,895

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,290,756	1,369,109
短期借入金	740,000	750,000
リース債務	3,113	2,576
未払法人税等	115,298	16,441
未払消費税等	23,571	45,714
賞与引当金	126,683	88,137
役員賞与引当金	—	16,587
その他	523,192	708,925
流動負債合計	2,822,616	2,997,492
固定負債		
リース債務	2,864	932
繰延税金負債	346,867	326,973
退職給付に係る負債	24,957	20,553
役員株式給付引当金	27,306	34,132
長期末払金	2,850	—
固定負債合計	404,844	382,590
負債合計	3,227,461	3,380,083
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,617,642	3,617,642
資本剰余金	3,422,547	3,422,547
利益剰余金	12,641,941	12,501,672
自己株式	△783,076	△783,131
株主資本合計	18,899,055	18,758,731
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	823,734	773,081
その他の包括利益累計額合計	823,734	773,081
純資産合計	19,722,789	19,531,812
負債純資産合計	22,950,250	22,911,895

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	12,297,619	11,496,995
売上原価	9,462,600	8,800,065
売上総利益	2,835,018	2,696,930
販売費及び一般管理費	2,151,588	1,973,037
営業利益	683,430	723,893
営業外収益		
受取利息	294	276
受取配当金	30,500	33,625
受取賃貸料	13,003	13,442
補助金収入	3,949	17,860
その他	19,325	17,273
営業外収益合計	67,073	82,477
営業外費用		
支払利息	2,833	1,659
租税公課	6,131	5,769
減価償却費	27,293	25,934
その他	7,635	6,628
営業外費用合計	43,893	39,991
経常利益	706,610	766,379
特別利益		
固定資産売却益	487	—
保険収益	25,736	4,357
特別利益合計	26,224	4,357
特別損失		
固定資産除却損	3,463	2,995
災害損失	4,297	19,339
賃貸借契約解約損	1,155	—
弁護士報酬等	920	—
社葬関連費用	10,252	—
品質関連損失	—	446,729
特別損失合計	20,089	469,063
税金等調整前四半期純利益	712,744	301,672
法人税等	243,728	85,419
四半期純利益	469,015	216,252
親会社株主に帰属する四半期純利益	469,015	216,252

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	469,015	216,252
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△112,077	△50,652
その他の包括利益合計	△112,077	△50,652
四半期包括利益	356,938	165,600
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	356,938	165,600
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

(偶発債務)

今般の当社製品の一部における不正表示（以下「本事案」）が判明したことに伴い、本事案に関する費用について可能な範囲において当第3四半期連結累計期間において品質関連損失に計上しています。今後も本事案に関する費用が発生しますが、現時点ではその影響額を合理的に見積もることが困難なため、四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	調味料	機能食品	水産物	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	5,912,785	2,242,000	3,214,796	11,369,582	928,036	12,297,619	—	12,297,619
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	10,899	10,899	—	10,899	△10,899	—
計	5,912,785	2,242,000	3,225,695	11,380,481	928,036	12,308,518	△10,899	12,297,619
セグメント利益	687,118	441,420	19,018	1,147,557	39,013	1,186,570	△503,140	683,430

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その他商品等であります。

2. セグメント利益の調整額△503,140千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の総務、経理部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II. 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	調味料	機能食品	水産物	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	5,792,089	2,088,779	2,719,015	10,599,885	897,110	11,496,995	—	11,496,995
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	12,118	12,118	—	12,118	△12,118	—
計	5,792,089	2,088,779	2,731,133	10,612,003	897,110	11,509,113	△12,118	11,496,995
セグメント利益	652,253	504,112	53,769	1,210,135	33,049	1,243,184	△519,291	723,893

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その他商品等であります。

2. セグメント利益の調整額△519,291千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の総務、経理部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。